

のじぎく兵庫大会 第6回全国障害者スポーツ大会

10月14・15日の両日、のじぎく大会（第6回全国精神障害者スポーツソフトバレーボール大会）に参加しました。結果は1勝1敗で予選リーグ敗退でした。しかし、全国ソフトバレーボール大会では、兵庫県代表チームとして歴史的な初勝利をもたらしました。

なによりも、のじぎく兵庫大会では、準備期間の段階から選手や応援の皆様、スタッフが心をついて最後まで取り組めた事が非常にありがたく、感謝しております。沢山の応援の声を掛けていただいたことによって、選手も勇気付けられ、それぞれの胸に熱く感じるものがあつたのではないかと思います。その気持ちが、社会に踏み出す大きな一歩になることでしょう。

このソフトバレーボールで得られた経験は、患者様だけでなく、スタッフである私にも大変大きなものとなりました。一人でも多くの患者様の社会復帰の力になれるように尽力していきたいと思えます。

また、2007年は秋田県で大会が開催され、それに向けての予選が再び始まります。これからも応援よろしく申し上げます。



基本理念
『人間愛に満ちた医療と愛情こもる看護・介護』



医療法人社団正仁会

明石土山病院・介護老人保健施設希望
つちやま訪問看護ステーション・精神障害者生活訓練施設みどり寮
精神障害者福祉ホームB型マックナイトホーム

〒674-0074

兵庫県明石市魚住町清水2744-30

TEL:078-942-1021

FAX:078-941-1573

E-mail:info@athp.jp



ホームページもご覧下さい

<http://www.athp.jp/>

Midori ~みどり~

平成19年1月1日発行
新年号 みどり



旧年中はお世話になり、誠にありがとうございました。
本年も何卒宜しくお願い申し上げます。

理事長・院長 太田 正幸

創立50周年を迎えて

昨年11月1日に創立50周年を迎えました。

この50年、太田正氣、中野良男、柴田理事達を中心となって作り上げたものでした。当時は患者様も職員も若かったものですから、ソフトボール大会、園芸、養鶏等、昔の作業療法が盛んに行われていました。私が継いだ20年前は、その作業療法は患者様職員も年をとり廃れてきておりました。

私には精神科病院の新しい方向性として患者様の社会復帰に力を入れていかなくてはならないという気持ちが当時から非常に強くありました。まず職員宿舎を改装して3室のグループホームを作りました。いまでこそグループホームは法制化されておりますが当時はまったく法制化などされていませんでした。院内のグループホームでしたので、「開放病棟とどう違うのか？」と批判の声もありましたが、入所されていたある患者様が自立し、旅行まで行けるようになった時には強く感動致しました。実はその患者様には身寄りがありませんでした。また入院されていた時は、粗暴行為が絶えない大変難しい方でした。10年以上入院生活を送られたと思えます。その患者様が既に多くの国を旅し、廊下で私とすれ違った時には、「先生、どこか良いところ（海外）ないか知りませんか。」と声を掛けられるぐらいまでに回復されたのです。旅行というのは見知らぬ方々と多く接触をしますので十分な社会復帰といえるでしょう。長く入院されていた方々にとって、すぐに社会復帰は大変難しいものであり、そのための中間施設が必要であると、このグループホームにより強く感じることができました。

つぎに、太田正氣記念館を建てたことが大きく影響をあたえました。デイケア・作業療法発展の一環として利用してもらうために建築いたしました。これが功を奏し、患者様がソフトバレーボール大会で一位をとるまでの力をつけ、今年、当院のチームが兵庫県代表として活躍しました。

当時に比べ、多くの新しい向精神病薬で救われた人たちが沢山おられます。これからも多くの新薬が出て来るでしょう。今まで病棟から出られなかった患者様も外出できる可能性が十分にあります。その可能性を信じて私たち精神科医療に携わる者として患者様たちを治療し、お世話をしていかなくてはならない。それが50年終始一貫貫いた理念であります。

この先10年20年、50年私たちの病院は地域の中核病院として、子供からお年寄りまでメンタルケアにあたっていききたいと思えます。これからも、全職員力を合わせ、より良い精神科医療を提供して参りたいと思えます。また、これまでお世話になった方々に深く感謝を申し上げます。ありがとうございました。

< 認知症の基礎知識 > その1: 認知症とは

医師 岩井 雅之

もの忘れ? 認知症?

年をとるにしたがって、「もの忘れがひどくなった」と感じる人は多いのでは?

この「もの忘れ」、ただのもの忘れで片付けていませんか?ここでは、知っているようで実は正しく理解されていない「認知症」について、わかりやすくまとめました。

1. 認知症は身近な問題

平成14年簡易生命表によると、日本人の平均寿命は、男性78.32歳、女性は85.23歳。日本は本格的な高齢社会に突入しているのです。認知症の高齢者も年々増加し、2005年は、約189万人、20年後には約292万人に達すると予測されています。そして85歳以上のお年寄りの4人に1人が認知症といわれています。

2. 認知症の定義

「久しぶりに会った人のことが思い出せない」このような経験はだれにでもあります。「もの忘れ」は自然な老化によっておこる「単なる歳のせい」で、誰にでも起こりえます。一方、「認知症」は「病気」であり、単なるもの忘れではありません。

そこで『認知症』とは

脳や身体の疾患を原因として、記憶・判断力などの障害がおこり

普通の社会生活がおくれなくなった状態

と定義されています。

ここでは、様々な症状によって毎日の生活が困難となった状態という点が大事です。

3. もの忘れとの違い

年齢を重ねるうちに「もの忘れが増えてきたな」と思う方は多いのではないのでしょうか。これは脳の神経細胞の減少という免れることのできない老化現象の影響で、誰にでもおこる「もの忘れ」です。このような、通常の老化による現象より早く神経細胞が消失してしまう脳の病気、これが『認知症』です。

認知症は、はじめのうちは歳のせいによるもの忘れとの区別が付きにくい病気です。大きな違いの一つとして、認知症は記憶のすべてを忘れてしまうのに対し、歳のせいによる物忘れは記憶の一部を忘れていくという点があげられます。

4. 認知症とは

認知症は、脳が病的に障害されておこります。その原因となる病気は、頭蓋内の病気によるもの、身体の病気によるものなどたくさんあります。多くは「アルツハイマー病」と「脳血管障害による認知症」です。なかには、原因となる病気を適切に治療することで認知症症状が軽くなるものもあり、それらは認知症全体

の約1割を占めているといわれています。日本では、脳血管障害による認知症の方がアルツハイマー病よりも多いといわれていましたが最近ではその割合が逆転し、アルツハイマー病の方が多いとの報告があります。

5. アルツハイマー病とは

アルツハイマー病とは、原因は不明ですが、脳内でさまざまな変化がおこり、脳の神経細胞が急激に減ってしまい、脳が病的に萎縮して(小さくなって)高度の知能低下や人格の崩壊がおこる認知症です。ゆっくりと発症し、徐々に悪化していきますが、初期の段階では運動麻痺や感覚障害などはおきません。また、本人は病気だという自覚がないのが特徴です。症状としては、まず「もの忘れ」があげられます。最初は、古い記憶は比較的保たれていますが、新しい出来事が覚えにくく、忘れやすいという特徴があります。病気が進むとももの忘れのために生活に支障をきたすようにさえなります。また、「判断力の低下」もみられ、さらに時間、場所、人物の判断がつかなくなります。

6. 脳血管障害による認知症とは

脳の血管が詰まったり破れたりすることによって、その部分の脳の働きが悪くなり、そのため認知症になることがあります。このような認知症を脳血管障害による認知症といいます。症状は、もの忘れ、頭痛、めまい、耳鳴り、しびれ等が見られることがあり、脳卒中の発作がおこるたびに段階的に悪化することが多い様です。脳血管障害による認知症は、障害された場所によって、ある能力は低下しているが別の能力は比較的大丈夫という様に、まだら状に低下し、記憶障害がひどくても人格や判断力は保たれている事が多いのが特徴です。

今回は、認知症の症状を中心にしたお話です。

第16回運動会



平成18年11月10日(金)太田正氣記念館(体育館)において第16回運動会が開催されました。この運動会を楽しみにされている患者様は多く、大変盛り上がる行事の一つです。

車椅子の患者様も参加できるプログラムも組まれており、より多くの患者様が楽しめるようになっています。

声援が多く飛び交い、出場された患者様も笑顔で応えていました。

これからも楽しめる運動会を開催できるようスタッフ一同がんばって参りたいと思います。